

国立研究開発法人 国立がん研究センター

「2012-2015年の4年間に診断されたがんの5年生存率」を公表しました（2025年11月19日）

国立研究開発法人国立がん研究センターがん対策研究所を中心とする厚生労働科学研究費補助金「がん統計を活用した、諸外国とのデータ比較にもとづく日本のがん対策の評価のための研究」班は、地域がん登録データを活用し、2012年から2015年診断症例の5年生存率を報告書にまとめ公表しました。本集計は、日本のがん患者生存率を住民ベースで計測した国全体と各都道府県の実態を反映した統計値で、がん対策の立案・評価に有用な指標となります。

プレスリリース

https://www.ncc.go.jp/jp/information/pr_release/2025/1119/2012-2015_5_MCIJ.pdf

全国がん罹患モニタリング集計 2012-2015 年生存率報告書

https://ganjoho.jp/public/qa_links/report/ncr/pdf/mcij2012-2015_report.pdf

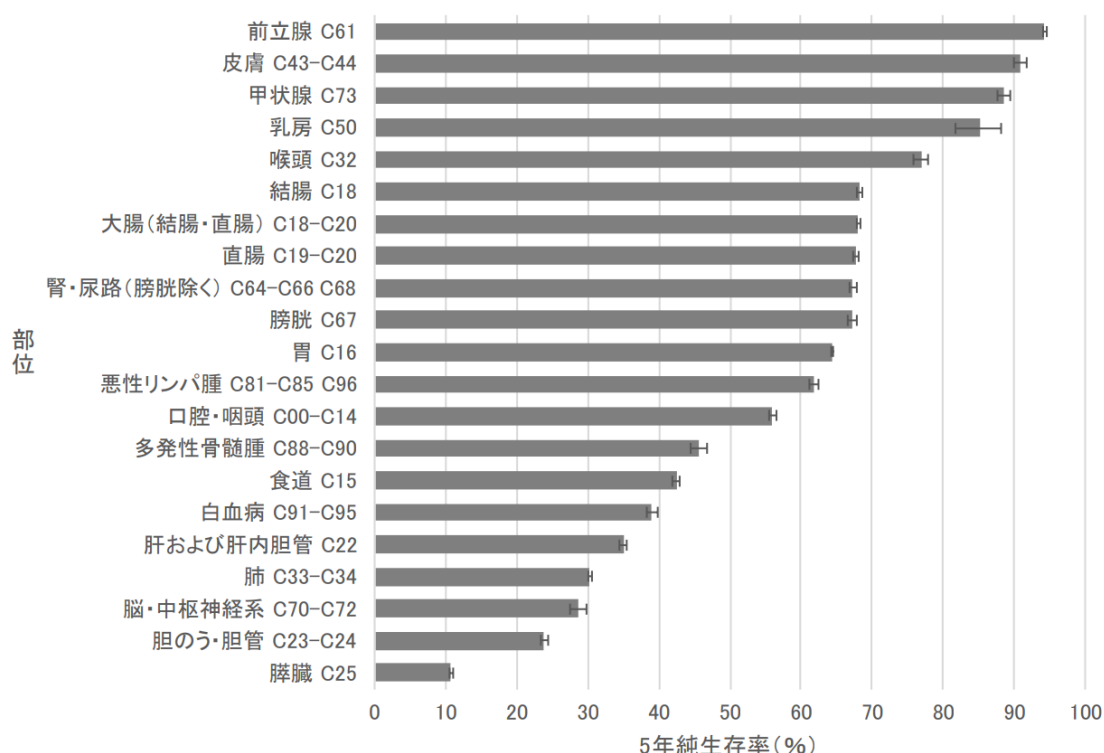
国立がん研究センターホームページ

https://www.ncc.go.jp/jp/information/pr_release/2025/1119/index.html

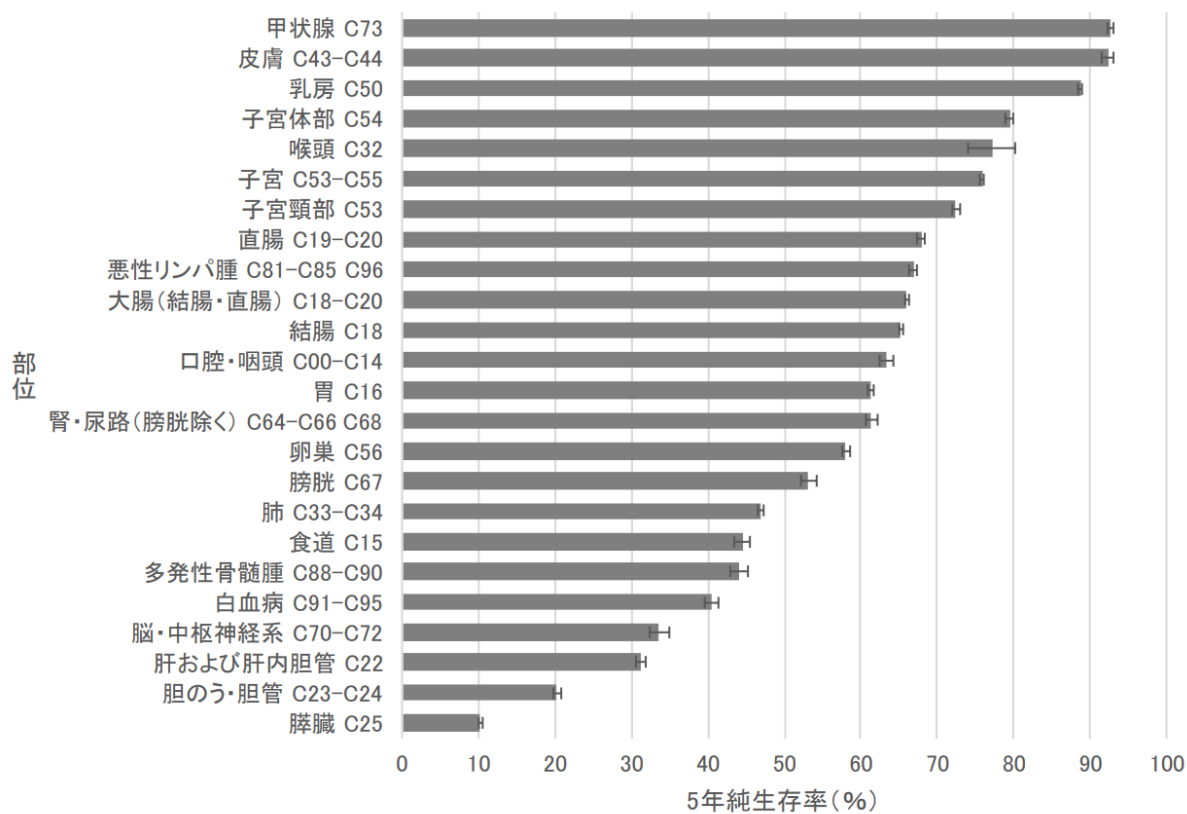
◆発表のポイント

- ・44地域、約7万症例（前回22地域、約59.2万症例）について、部位別、臨床進行度別、年齢階級別に、国際比較にも利用できる5年純生存率を推定。
- ・部位別に5年純生存率をみると、男性では前立腺94.3%から膵臓10.7%、女性では甲状腺92.7%から膵臓10.2%まで部位によって大きな差が見られた（報告書p33）。
- ・本集計とあわせて、1993年からの生存率を純生存率の年次推移として経年変化をみると、多くの部位で生存率が向上していることがわかる（報告書p41-44）。

<部位別5年純生存率（男性） 報告書p33 図5-1>



< 5年純生存率（女性）報告書 p33 図 5-1 >



※純生存率の年次推移は、プレスリリースもしくは報告書 p 41-44 をご参照ください。

以下余白